

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070200821		
法人名	株式会社七施		
事業所名	グループホーム大正館 ユニットⅠ		
所在地	北九州市若松区花野路1-2-5		
自己評価作成日	令和3年3月6日	評価結果確定日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ会社の総合介護事業いわさきグループの理念である『当グループを利用していただける利用者様を増やすだけでなく、関わるスタッフも増やしていこう』 また、『働いてくれるスタッフの待遇を改善していこう』を実現していくため、日々の活動に力を注いできた。その効果もあり、入居者数も高い水準で推移し、スタッフも約2年間、希望退職者なしで運営できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が変わって3年となり、管理者は働きやすい職場作りを目指してきた。職員のゆったりとした対応で、新規入居者も穏やかに過ごされ家族が驚くほどで、入居者の感謝の言葉や笑顔に働き甲斐を見出し、資格取得を希望する職員もあり、その成果が伺える。夕方の帰宅願望には洗濯物の取り入れなどで気分を変えたり、察知した物音でトイレに誘導したり、入浴を億劫がられる入居者には自宅で介助していた娘さんと同じ服装で入浴を支援し、今では普通の服装でも入浴されるまでになった。訪問看護や協力病院との連携で適切な医療受診を支援し、胃袋を造設され入院中の入居者は敷地内の系列ナーシングホームに転居の予定で、ホームのできる限りの対応をしながら本人や家族の意向に添うように努めている。運営推進会議で意見や情報を交換し、コロナ禍の中家族へのアプローチや交流に配慮しながら、職員全員で新たな理念や目標づくりが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム大正館 ユニットⅠ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の定義が北九州市では広すぎる。『中学校区』という本来の地域密着型サービスであれば、左記の理念を果たすことも可能かもしれない	管理者は働きやすい職場づくりを目指している。職員のゆったりとした対応で、新規入居者も穏やかに過ごされ家族が驚くほどである。入居者の感謝の言葉や笑顔に働き甲斐を見出していると、話す職員もいる。	職員が目指すホームの在り方を明確にするため、職員全員で新たな理念や目標づくりを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流はできていない。特に、コロナ禍ではまったくだ。以前は、家族会等に地域の自治会長や町内会長が参加してくれていた。	コロナ禍のため行事は中止され、ボランティアの来訪もなく、ユニット内でのレクレーションなどで過ごしているが、登下校で通りかかる小中学生とあいさつを交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さまざまな意見交換を行っている。また、サービス向上にも活かせるように努めている	昨年4月は入居者のみの参加となったが、その後は民生委員、町内会長等の参加で定期的開催され、議事録は玄関で公表している。民生委員からコロナ禍での家族へのアプローチや交流について意見があるなど、意見や情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特にない	毎月市に居室情報を提供しているが、現在は空き室はない。1月に予定されていた実地指導は5月に延期され、運営推進会議で担当者の感染対策の質問に答えるなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、自治体からのアンケート等も活用して、スタッフ全員に徹底している。委員会も法令通り、3カ月に1回開催している	系列施設と合同で3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、議事録を整備している。玄関の施錠はなく、出入り口の扉に設置したベルで対応している。ベッド柵やセンサーの使用はなく、夕方帰宅願望のある入居者も洗濯物の取り入れなどを手伝ってもらうことで、気分を変えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言語道断		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者には理解を徹底している。しかし、スタッフへの認知は不足しているかもしれない	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用者はいない。新規入居者もあり、家族の多様性もあることから、新しいパンフレットを整備したいと管理者は話している。	今後の動向を鑑み、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、必要時説明や関係部署との協力体制を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおり実施している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意しているが、活用されることはほぼない。皆様、直接に要望してこられる。それに対しては、可能な場合は対応している	全家族に面会制限に関する文書を送付し、心身の状況等は随時電話で報告している。家族からはおやつを差し入れたいや身内の葬儀に参加させたいなどの相談があるが、その都度理解や協力をお願いしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見には耳を傾け、ほぼ管理者の意向に沿った運営にしている	定期的な会議はないが、朝礼時や昼休みにタイムリーに意見交換している。申し送りノートなどで情報を共有し、日頃から管理者は意見や提案を表出しやすい環境作りに務め、物品購入などが検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記のとおり実施している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	左記のとおり実施している	民間広告や知人の紹介で、20代から70代の男女の職員が勤務している。現在は派遣職員より非常勤や常勤で2年以上勤務している職員が多い。職場の人間関係もよく、希望休や子育て中の急な休みも叶い、昼休みも交代で取っている。研修や資格取得も推奨され、入職3年目の職員は職場が楽しいと話し、資格取得を希望している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束や虐待防止に関して必ず人権の問題が出てくる。そこで、人権についての教育は実施している	オンラインセミナーで受講したハラスメント研修レポートを全職員で閲覧したり、管理者が受講した市主催の人権研修内容を報告している。管理者は日々不適切な言葉遣いやケアに注意を促し、指導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのシフトの関係から、なかなか全員が集まった研修は難しい。管理者や主任が個々に指導を実施している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で遠ざかっているが、若松区の医療・介護連携会や介護事業所の集まり等には管理者が出席している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ならびにご家族の声に耳を傾け努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	左記のとおり実施している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	左記のとおり実施している。当施設では困難な場合は、グループ会社の他の施設等に紹介している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記のような関係づくりに励んでいる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さまざまな家族関係があるため、一概に左記のようにはいかない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	左記のとおり努めている	面会は制限しているが、是非にと来所された家族とは玄関先でマスクを付け換気をして3分程度の面会をお願いしている。今では定期的に訪れる理美容師がすっかり馴染みになっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	左記のとおり努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	左記のような事例はあまりない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左記のようになかなか難しいが、家族の意見も参考にしながら、努めるように心がけている	職員がマスクをつけたままでの対応では伝わらない場合も多く、身振り手振りで意思の疎通を図ったり、ソファに座って入居者とゆっくりと話す時間を設けることで、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人ファイルに目を通しながら、左記のように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記のとおり努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を筆頭に左記のように努めている	介護計画はいつでも職員が見ることができる場所で保管されている。アセスメントした入居者の意向やケアの実施状況、職員の気づきをモニタリングに活かし、計画の見直しをしている。夜間の大声に他の入居者まで不穏になる事態に検討を重ね、家族の同意で専門医療機関に入院し、落ち着きを取り戻した入居者もある。	常時短期目標やケア内容を確認できる経過記録表の工夫で、支援結果と連動したチームケアを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記のように実施している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲内での対応は心がけている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	左記のように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、毎週1回の訪問看護を実施している	内科や眼科、歯科の訪問診療が行われ、その他の受診で家族の同行が困難な場合や検査の受診は職員が同行している。医療依存度が高くなった入居者は訪問看護師や系列のナーシングホームの看護師に相談し、適切な医療受診に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記のとおり		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送の医療機関は2カ所。その医療機関との情報共有は適宜実施している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りはグループホームの役割ではないと考えている。国の施策でそのような形になりつつあるが、可能な限り医療機関やグループ内の他の施設へ転居をお願いしている	嚥下が困難になり入院中の入居者は胃管を造設されることになり、家族や関係者の話し合いで、敷地内のナーシングホームに転居の予定である。ホームでできる限りの対応をしながら、関係者とのタイムリーな話し合いで本人や家族の意向に添うよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	左記のように実践している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力はできていない。訓練の同時実施等、計画は上がっていたが、実施には至っていない	コロナ禍で通常の避難訓練はできなかったが、職員間でシミュレーションなどの話し合いをしている。紙おむつや水、スポーツドリンク、冷凍食品などを備蓄しているが、今後は種類や量などを検討し、充実を図る予定である。	昨今の自然災害状況から、備蓄台帳の整備や持ち出し書面の検討、地域との協力体制の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記のように実践している	入居者は名字で呼称しているが、ご夫婦の場合は下の名前でお呼びすることもある。入居者の笑顔を大事にした声かけや対応に努め、入居間も無い入居者も穏やかな表情になっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームという特徴から、なかなか難しい面があるが、可能な限り左記のように努めるように心がけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左記のように実践している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様全員ではないが、身だしなみを気にされる方へは、左記のように実践している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは統一されているので、一人ひとりの希望には応えられていない	冷凍で届いた食事を、調理担当職員が嚙下や咀嚼に応じた食形で提供している。ソフト食の入居者もあるが、メニューが異なる。クリスマスやバレンタインなど行事の折は、勤務職員を増やしてチョコプリンなどを作り、入居者の笑顔を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記のように計算された食事メニューを提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記のように実践している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助の面倒さを嫌い、おむつに頼るスタッフが時に出てくる。その折は、厳しく指導している	車椅子の入居者もあるが、日中は全員トイレでの排泄を支援している。本人の様子を見ながらのトイレ介助で、失禁に対応している。夜間はおむつやポータブルトイレ使用もあり、トイレの場所がわからない入居者は、物音で察知しトイレに誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、便の記録をとり、数日間出ていない時は、かかりつけ医に相談して薬を処方するなど対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	左記のようにには実践できない	週2回を目途に入浴を支援している。入浴を億劫がられていた入居者は、自宅で介助していた娘さんと同じように短パンとシャツでの介助で入浴されるようになり、今では普通の服装でも入浴されるまでになった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	左記のように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左記のように努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったレクリエーションを展開することは困難だが、いくつかのグループ分けをしたレクリエーションは実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の暖かさを感じる散歩程度なら実施しているが、家族や地域の人々と協力しながらの外出は想像もつかない	感染防止に配慮し、日頃は人出が無いことを見計らって近隣を散歩している。まもなくホーム前の桜並木が見ごろを迎えるが、テラスでお茶などしながらガラス越しのお花見は入居者の関心が薄いため、ドライブがてら車窓からの花見を計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、多くの問題が生じるため、本人には少額しか持たせない。責任をもって、事務所で預かり、家族等に出納帳や領収書を渡している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記のように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の皆様が作成する季節に応じた飾り物などを掲示している	居間にはテーブルやイスが設置され、傍の洗面台の大きな鏡に居室入り口や廊下が映り、広い窓から明るい陽光がさし込んでい。壁にはおひなさまや梅に鶯、書初めなどの作品が飾られ、換気や空調に配慮され、窓側のソファは寛ぎの空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記のように実践している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように実践している	毎朝職員が居室を清掃しているが、時折モップがけを手伝う入居者もある。入居者の要望で入り口の引き戸のすりガラスを紙で覆い遮光したり、壁に書初めやぬり絵など作品を飾り、使い慣れた筆筒や、愛用の帽子を積み上げるなど、心地よい空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左記のように実践している		